

一うゝとく出を倭は華とあらうととせしと也此與猶よ
 る也古写本塙本とあるに句仍ありしとあるもあえり
 とうひては餌をせうくするはゆらげをさるる鶴のあへる
 とうひてははるまてひるせはるをくちく鶴のひるさう一は元
 腹足うゝ故餌を捕く迎くあらんとする鶴の思ふさよとんや
 むらむげハ持あげりうのさねど鶴の羽はさうひり此鶴や結句
 のに文字よの誤本べー或古写本やとあるは後あべー
 秋の野はさうさるあそと女部をあらとこふさうふの鶴
 さうふの鶴ハ黄黒府也嶋府鶉府とれ鶴の名也地白小
 しく府とた英也とて女郎系ハ黄色あればその名のさふとけ也